

出張報告書

平成 29 年 4 月 25 日

市議会議長 岸田 厚 様

会 派 名 公 明 党

代表者氏名 友永 修

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 地域自主運行バス、応神ふれあいバスについて
- 2 出 張 先 徳島県徳島市
- 3 出張期間 平成 29 年 4 月 24 日（月）
- 4 出張者氏名 友永修、松本妙子、米田貴志、岩崎雅秋、南加代子
- 5 てん末報告 別紙の通り

公明党（会派）行政視察レポート

報告者

友永 修

視察先	徳島県徳島市	テーマ	地域自主運行バス「応神ふれあいバス」について
日 時	平成 29 年 4 月 24 日（月） 13 時 00 分～15 時 00 分		
市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について			
..... 徳島市の応神地区は、北部に位置し、市中心部とは吉野川によって隔てられた地区である。ＪＲ吉成駅のほか、徳島バスが幹線道路を２路線運航しているものの、交通不便地域が大部分を占めていたようで、近隣に病院やスーパーがなくマイカーを持たない高齢者は、徒歩で１時間以上かけて通院や買い物を行っていた。そこで、地域のある住民が発起人となり、住民主導によるコミュニティバスの導入に向けた取り組みが開始された。実際にバスを利用したい方を募るところから始め、協賛金をしてくれる企業など開拓、住民が独自で事業実施にむけ動き出した。行政は、実施にむけて、運行を委託する運行事業者とのつなぎや法律上の手続きに関する事務や国庫補助金などの手続きで支援。住民による自主運行バスの事業実施が実現されたようです。週三回の運行で、２コースであります。停留所は、独自で考案し、個人宅前なども数か所あるそうです。収支として、運行経費と事務費の合計に対し、25%を運賃・定期及び協賛金で賄えるよう地域住民で活動している。あとは、国庫補助金（公共交通不便地域）と市の補助金をあてている。応神地区の収支は、支出が約 350 万円位であり、国と市の補助金合計が約 300 万である。本市に当てはめて考えると、各校区もしくは中学校区での事業展開が出来ないものかと考えます。しかし、大前提として、市の事業ではなく、住民が主体となり自分たちで考え、実施する事業であるとの意識改革が必要である。でなければ、実現は難しいと思う。今後の本市のバス運行事業を考えると、この応神ふれあいバス事業は、非常に参考となる興味深い事業と考えます。会派としても、実現にむけ推進して参りたい。 			